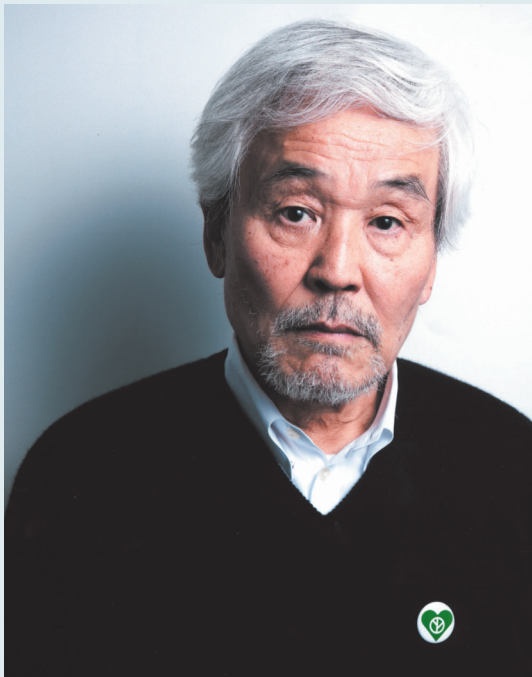


公共広告の第一人者 青葉益輝さん追悼特集

―見る人のためのデザインに徹した軌跡―



日本の代表的なグラフィックデザイナーで、30年にわたり毎日広告デザイン賞の審査員を務めた青葉益輝さんが、72回目の誕生日を間近に控えた7月9日に亡くなった。青葉さんといえば、東京都の美化運動ポスターや反戦平和、環境にかかわるシリーズで、公共広告の第一人者として知られた人。折々に残された青葉さんの言葉を交えながら、その活動の軌跡を振り返ってみたい。

青葉さんのデザイナーとしての始動期は、桑沢デザイン研究所を経て広告会社に勤務していた1960年代。日米安保をめぐる国内の騒乱が一段落し、64年の東京オリンピックをはさんで、日本が高度経済成長の軌道に突っ走っていたころである。広告会社に入って最初の仕事が、東京都の美化運動のポスターだった。

桑沢の学生時代から、東京オリンピックを控えた都内の町中で、美化を

訴えるポスターは、しばしば目にしていたらしい。その当時の印象を、青葉さんは「どれも汚らしかったし、お説教じみてつまらなかったね」と漏らしたことがある。そんな不満が、なかばボランティアに近かったこの仕事への情熱をかき立てる原動力にもなったのだろう。

かくして、東京のゴミ問題をテーマとした最初のシリーズが誕生する。いずれも都市の汚れぶりを実感させる写真とコピーを組み合わせたもので、たとえば路面の水たまりにタバコの吸い殻がちらばる「灰皿ではありません」や、吹き飛んできた紙がチューリップの花にかぶさってしまった「風に罪はない」などが、よく引き合いに出される。

これらは「ゴミの青葉」の異名を生んだ作品でもあるが、一目でそれと意味のわかる画像といい、ウイットと風刺がほどよくブレンドされた言葉といい、

るのが広告の使命」と、言い切ってみせたように。長年にわたる毎日広告デザイン賞の審査活動や、08年の毎日新聞の紙面刷新―現在の毎日新聞紙

面がそうだが―のレイアウト始動に心血を注がれたのも、その思いと無縁ではなかったはずである。

〈文三田晴夫〉

まさしく公共広告の金字塔と呼ぶにふさわしい。やがてそれは、国際的なコンペティションで数々の受賞を重ねることになる反戦平和や、環境問題を扱った仕事へと受け継がれていく。

このシリーズでも、青葉調全開の傑作の数々と出合うことができる。反戦平和からは、深紅の色面を背景に、2丁のライフル銃の黒い影が交差し、銃身がぐにやりと曲がってハート形を描き出す作品を挙げよう。内部には「THE END」が浮かび上がり、左右には八つの言語で、同じ平和のメッセージが綴られる。

環境のシリーズでも選ぶのに「苦勞するが、ここでは「少し愛して、長く愛して」を意味する英文と、先端が緑の木の色に変容したライフルトパーパーの絵を組み合わせたものが面白い。明快なメッセージが、やわらかいユーモアにくるまれて、こちらの胸いっぱいに染み広がっていくのが感じ取れる。

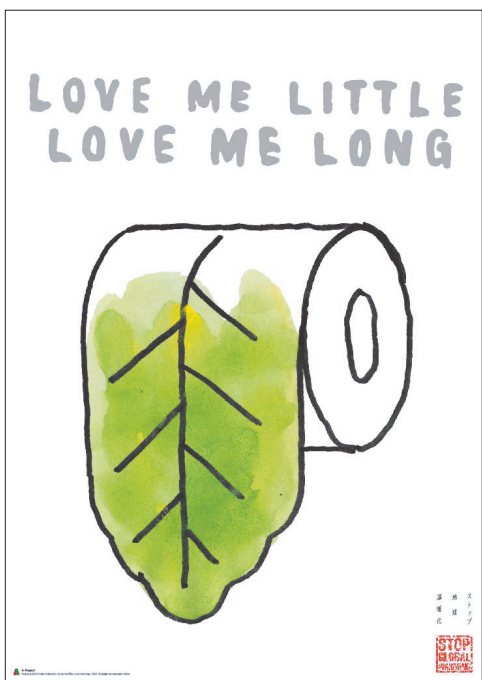
ライフル銃もトイレットペーパーも、決して美しい対象物ではあるまい。しかし、青葉さんの手にかかれば、美的なイメージへと変貌を遂げる。「ぼくはゴミのポスターで有名になった。他人が美しくないと考えたものを、トリミングで美しくみせるのもグラフィックデザインの役目。芸術はつくり手

のもですが、デザインは見る人のものだから」と、青葉さんが語っていたの思い出す。

こうした青葉美学の到達点ともいえるべき名作が、93年に制作した長野冬季オリンピックの公式ポスター第1号にほかなるまい。濃青色の空や朝焼けの光に染まったアルプスを背景に、スキーのストック先端にとまったツグミが描き出すシルエットの美しさ。競技ではなく自然がモチーフとされたのは、オリンピックといえども環境問題を回避し得なくなった時代の証しであろうか。

広告活動とは別に、青葉さんは85年に始まった「〇△□」展に格別の情熱を注いでいた。桑沢デザイン研究所以来の仲間である長友啓典さん（〇）、浅葉克己さん（△）、自身（□）の3人展で、全員が古希となった昨年、久しぶりに開催された。その折には「喜寿の時も3人そろってやりたいね」と喜んでおられたと聞くが、無念にもかなわぬ夢となってしまった。

情熱といえば、青葉さんほど新聞に熱い思いを抱き続けた人もまれだろう。かつて新聞広告のテレビCMの多数化の論理を批判して、「本来的にはたった一人でも、目的意識を持った人のために意を尽くして発信す



青葉益輝「あおはますてる」

1939年東京都生まれ。62年に桑沢デザイン研究所を卒業し、広告代理店を経て、69年にA&A青葉益輝広告制作室を設立。63年毎日産業デザイン振興運動（現毎日広告デザイン賞）佳作賞、63〜64年朝日広告賞、準朝日広告賞を受賞。82年ブルノ国際グラフィックデザインコンベンションレグランプリ、87年ワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレ金賞、92年ニューヨークアートディレクターズクラブ（ADC）国際展金賞などの受賞。93年に、1998年長野冬季オリンピック第二回公式ポスター制作。2006年紫綬褒章。国際グラフィック連盟（AGI）会員、東京ADC委員、日本グラフィックデザイナー協会（JAGDA）理事を務めた。毎日広告デザイン賞審査員は82年から。08年毎日新聞の紙面レイアウト刷新でアドバイザー。小誌「SPACE」のデザイン担当。創刊140年など周年口コ制作も行った。